



# 州立ロンドリーナ大学

State University of Londrina



●学部学生 約13,000人 ●大学院生 約4,500人 ●教職員 約5,300人

ホームページ <http://portal.uel.br>

交流協定締結年月日：2013年3月11日 主管学部：農学部



大学メインゲート



## 国際交流の特色

1971年に創立されたパラナ州立の大学。パラナ州はブラジル南部に位置し、パラグアイとアルゼンチンとの国境を有している。比較的温和な気候の為農業が盛んな地域であり、大豆、小麦やトウモロコシを主に生産している。ブラジルの中では先進地帯として知られ、住環境は優れた州のひとつである。教育と健康の面においても州政府が力を注いでいる。大学があるロンドリーナ市は州北部にある人口約50万人の地方都市で、日系人が約2万人と比較的多い。学部は、人文科学・言語学部、理学部、体育・スポーツ学部等からなる総合大学で、それぞれに複数の学科を有している。大学院は学科毎に設置されている。

## 交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度	R4	R5	R6
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	1
研究者・職員の派遣	0	0	1
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0



キャンパスの一部



市中心部

## 教員からの声

日本は、現在、非加熱鶏肉の約74%、コーヒーの約30%、大豆の約16%、トウモロコシの約6%をブラジルから輸入しており、香川の名物である骨付き鶏もほとんどがブラジル産であるともいわれています。このように、ブラジルと日本、香川との関わりは深いです。州立ロンドリーナ大学は、ブラジル農業の中心地に位置し、日系人の比較的多い地域で、治安も良い場所です。

今後、農学部と活発に共同研究を行うことで、相互の発展が期待されます。また、パラナ州では農業が盛んな故、農薬の過剰使用などにより、水質汚染の問題も抱えており、工学部などとの共同研究が可能となれば、これらの分野などでも相互交流が活発に行えると期待されます。

農学部教授 川村 理

## 学生からの声

ロンドリーナ市は日系人が多いため、和食レストラン、日本風の公園や祭など日本文化の影響を強く受けています。市郊外にある州立ロンドリーナ大学は、自然豊かで広く、各学部の学生と出会う機会があり、色々な人々と話し合い相互理解を深めることが可能です。また、日本文化研究所では、日本語講座、イベント、学生や教授との交流支援など様々な活動を行っています。州立ロンドリーナ大学農業科学部と香川大学農学部で学習する科目は似ていますが、ブラジルでは農作物生産量が多いので主に農業技術を勉強するのにに対し、日本では食品の加工や安全を重視する違いがあります。その両方の知識を得たら、学生は食の問題を新たな視点から見るができると思います。国際交流を通じて、BRICSのブラジルで挑戦したらいかがでしょうか。

2014年9月農学研究科修了 キクチ バガチン アーツル